

アドビ ドキュメントサービスで 実現するコンプライアンスと リスクマネジメント

目次

- 1 組織のリスクマネジメントやコンプライアンス対策と電子文書にどのような関係があるのですか？
- 1 個人情報流出への対策が重要なのはなぜですか？
- 1 組織でのコンプライアンスへの投資を活用して、ビジネス上の利益に結びつけることはできますか？
- 1 なぜ現行の電子文書保護対策では不十分なのですか？
- 1 規制への準拠、リスクの軽減、および業務効率の向上につながる電子文書の管理を確実に行うために、組織は何をすべきでしょうか？
- 2 具体的には、アドビのセキュリティソリューションによって何が実現するのですか？
- 2 企業では、アドビのソリューションをどのように活用して、規制への準拠や業務処理の合理化を図ってきましたか？
- 3 アドビのソリューションがどのようにリスクの軽減や規制への準拠を実現するかについて、より詳しい情報を知りたいのですが、どこにありますか？

ドキュメントレベルのセキュリティソリューションにより、ビジネスプロセスの効率化を図りながら、個人情報保護およびコーポレートガバナンスへの準拠を推進

Q: 組織のリスクマネジメントやコンプライアンス対策と電子文書にどのような関係があるのですか？

A: 基幹業務の合理化を図るために、企業では機密情報を含む電子文書が多用されています。これらの文書の保護が適切に行われていないと、情報の流出により多大の犠牲を払うことになりかねないばかりでなく、個人情報およびコーポレートガバナンスに関する世界的な規制に準拠できないこととなります。

Q: 個人情報流出への対策が重要なのはなぜですか？

A: 電子文書に含まれる情報のセキュリティ管理を怠ると、多額の損失や、社会的評価の失墜、ブランド価値やイメージの低下、株主代表訴訟などにつながりかねません。情報盗難問題が急速に拡大する中、世界各国で個人情報を保護するための厳しい法律が制定されてきました。それらの法律は、違反者に対して、思い罰金や懲役刑などの厳しい刑罰を科します。

Q: 組織でのコンプライアンスへの投資を活用して、ビジネス上の利益に結びつけることはできますか？

A: コンプライアンス活動を通して、業務効率向上、経費削減、および市場拡大などの効果が得られることがあります。多くの法律が業務処理の合理化を認めているからです。例えば、金融・法務手続きにおいて、署名の代わりに電子署名を使用することが法で認められています。電子署名を利用すれば、ビジネスプロセスの完全な自動化が可能です。法的手続申請をオンラインで行うことができるばかりでなく、書類を印刷してから処理しなくても、取引に法的効力を持たせることができるようになります。

Q: なぜ現行の電子文書保護対策では不十分なのですか？

A: 電子文書保護のためのセキュリティ対策の多くは、ドキュメントの保管時もしくは送信時に重点を置くものです。しかし、それでは電子文書の内容を保護することにはなりません。ドキュメントがエンドユーザーの手に渡ると、保護の対象外になってしまうからです。そして、意図的であろうとなかろうと、権限のない受信者に転送されたり、参照されたりする可能性があります。

Q: 規制への準拠、リスクの軽減、および業務効率の向上につながる電子文書の管理を確実に行うために、組織は何をすべきでしょうか？

A: 組織は、送信時や保管時だけでなく、常に電子文書の保護と監視を行えるようにしなくてはなりません。そのためには、ドキュメントレベルでのアクセスの管理や使用状況の監視を、ドキュメントのライフサイクル全体を通して行う必要があります。しかも、企業ネットワークや携帯用ノートパソコン上、あるいは取引先や行政機関とのやり取りの中など、ドキュメントがどこにあっても一貫して行わなければいけません。

この点において他のセキュリティ手段と一線を画するのが、ドキュメントコントロールおよびセキュリティを提供するアドビのソリューションです。Adobe® Document Services では、セキュリティが個々の電子文書に付与されているので、文書が組織のネットワーク外に配信されたとしても、セキュリティを維持できます。アドビのソリューションにより、企業はドキュメント配信元の真正性、内容の完全性、および通信の機密性をより確実に保護することが可能です。アドビのソリューションは、既存のコンテンツ管理やユーザ管理システムと統合して、ドキュメントのアクセスおよび使用状況を集中管理できます。その結果、組織では、コスト効率よく知的財産や顧客データの保護を強化し、規制への準拠を図りながら、基幹業務のオンライン化を促進することが可能となります。

Q: 具体的には、アドビのセキュリティソリューションによって何が実現するのですか？

A: セキュリティのための Adobe Document Services では、ドキュメントコントロール機能と電子署名を組み合わせることで、以下のことを実現します。

- 企業のドキュメントコントロールにおいて、配布済みの電子文書に対するアクセスを管理するという難題を解決。Adobe Document Services の利用により、ドキュメントコントロールポリシーを設定し、Adobe PDF (Portable Document Format) ファイルの使用状況を集中管理することが可能になります。ポリシーを設定することで、Adobe PDF ドキュメントを開いて閲覧、コピー、編集、印刷などを行う権限を誰に付与するかを指定できます。そしてしかるべきポリシーが実行されると、アドビのドキュメントコントロールにより、電子文書がどこにあるとしても、その使用状況を動的に管理および監視できます。
- 電子署名により自動プロセスの利用を促進。アドビは主要セキュリティベンダーとの協力関係を築き、電子署名を PDF ファイルにすばやく簡単に付与できるしくみを作りました。電子署名を利用すれば、送信者の身元を確認し、また配布済みドキュメントが改ざんされないようセキュリティを強化することが可能です。アドビのデスクトップベースおよびサーバベースの電子署名ソリューションでは、法的に署名を必要とする業務処理をオンラインへと移行し、処理時間とコストを削減できます。
- 承認済みドキュメントにより、作成者の検証および内容の完全性が強化された Adobe PDF ファイルを広く共有。作成者は、信頼できる機関により作成者の身元が検証済みであることを受信者に対して自動的に証明する PDF ファイルを作成できます。また、承認済み署名を使用して、ドキュメントの内容が全く変更されていないことを検証できます。WebTrust 認証証明機関のホスト型公開鍵基盤 (PKI) に電子署名サポート機能を組み込むことで、承認済み署名によりドキュメントの完全性が最高レベルに向上します。

Q: 企業では、アドビのソリューションをどのように活用して、規制への準拠や業務処理の合理化を図ってきましたか？

A: セキュリティのための Adobe Document Services により、様々な分野の企業において、電子文書の使用の拡大および各種業務の完全自動化が実現されてきました。

例えば、ある世界的規模の製薬会社では、医薬臨床試験データの収集、臨床試験の内部管理、医薬製造工程で使用される書類の管理など、基幹プロセスの一部をオンライン化することにより、コストを削減したいと考えていました。こういったプロセスは規制が厳しいため、手書きの署名に代えて法的に認められた電子署名を導入するための方法が必要でした。Adobe PDF ベースのワークフローおよびアドビの電子署名ソリューションを活用することで、その会社は、FDA 規制の要件を満たし、必要書類をオンラインで提出することができるようになりました。その巨大製薬会社は、紙ベースのプロセスから部門や地域の枠を越えたオンラインワークフローへと移行を図り、処理時間を短縮し、紙の書類の配布、管理、郵送などにかかる費用を削減しています。

Q: アドビのソリューションがどのようにリスクの軽減や規制への準拠を実現するかについて、より詳しい情報を知りたいのですが、どこにありますか？

A: アドビセキュリティソリューションを構成するアドビの各製品についての詳細情報は、以下の Web サイトおよびドキュメントをご覧ください。

[ドキュメントコントロールおよびセキュリティを提供する Adobe Document Services](#): 作成から配信後までドキュメントを保護。

[機密情報保護についてのソリューション概要](#): コンプライアンスとリスクマネジメントをドキュメントレベルで実現するアドビのソリューションにより、コスト削減を促進しながら、法規制への準拠と企業イメージの保護をサポート。

[Adobe LiveCycle™ Policy Server](#): 動的なセキュリティポリシーを一貫してドキュメントに適用し、アクセス可能なユーザ、ドキュメントの使用法、アクセス可能な期間を指定。

[Adobe LiveCycle Document Security](#): 電子署名機能と認証機能で、大量の電子ドキュメントの処理を自動化。

[アドビのドキュメント認証サービス](#): 認証済みの PDF ドキュメントやフォームの使用により、ドキュメントの信頼性を保証。

[Adobe Acrobat® ファミリー](#): 任意のアプリケーションで作成したドキュメントを Adobe PDF にすばやく変換・統合し、注釈やセキュリティを追加。

[Adobe Reader™](#): Adobe PDF ファイルの表示、印刷などを行うための、プラットフォームを越えた無償のソリューション。

[Adobe LiveCycle Reader Extensions](#): 受信者が高価なソフトウェアに投資しなくても、インタラクティブでインテリジェントな Adobe PDF ドキュメントを外部と簡単に共有。

Better by Adobe.™

アドビシステムズ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.co.jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe、Adobeロゴ、AdobeLiveCycle、Acrobat、Readerおよび“BetterbyAdobe”は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
Printed in Japan.

95005552 08/05

